

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホール、玄関など常に見えるところに掲示し意識して支援を行っている。	事業所の理念及びユニット毎の理念を作成し、事業所玄関、各ユニットに掲示しています。また、ミーティングにて理念を確認する機会を設けています。	調査時点で、職員の部署目標の理解度が低かったため、今後改善できるように検討されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会やいも煮会等の行事や月1回のお茶の間クラブに参加し交流を図っている。保育園とも交流を図っている。	公民館で行われる地域のお茶の間クラブに毎月ご利用者と一緒に参加したり、町内の運動会や清掃活動、小学校や保育園の行事にも参加するなど、地域との交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回のお茶の間クラブに参加し、交流をしながら理解してもらえるように努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に行っている。意見等を議事録にまとめ職員間で確認しサービスの向上、改善に活かしている	運営推進会議には包括支援センター職員、区長、ご利用者代表、ご家族代表などに参加していただき、2ヶ月に1度行われています。ヒヤリハット・事故報告などの状況報告や広報誌を配布するなどして事業所の実情をご理解していただいています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂いている。管理者が連携を取り協力してもらえ体制を整えている	包括支援センター職員には運営推進会議に参加して頂いているほか、介護高齢課や包括支援センターとはご利用者の状況に応じて連絡・相談が行える関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し確実に取り組んでいる。万が一行った場合は記録に残している	ホームでは玄関の施錠も夜間のみとしており、接遇研修の機会も設け職員の言葉遣いについても徹底する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が研修等で学び理解、実践している	虐待の防止についても、外部研修参加者より職員会議にて研修内容の周知をしており、日頃から注意を払っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状は活用していないが、機会ある毎に研修等に参加し支援できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、管理者が時間をかけて分かりやすく説明し、理解してもらえるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議に意見、要望を頂き改善に努めている	ご家族とは面会時でのやりとりや、運営推進会議の場で意見収集をしています。また、ご家族参加型の敬老会も実施しており、意見や要望を確認するように意識しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや管理者が、常に意見を聞く体制を整えている	毎月の職員会議、日常業務でのコミュニケーション、必要に応じての個人面談を通じて、職員の意見や提案を運営に反映させる取組みがされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談や人事考課を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を発信し、学ぶ機会を多く持てるようにしている。勤続年数に応じた社内研修も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じたネットワーク作りや、管理者は近郊のグループホーム会議に出席している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や自宅に訪問しコミュニケーションをとりながら、話やすい雰囲気作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、主任が見学や訪問時にお話を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向に添う様に管理者、計画作成者がケアプランを作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として接し、役割を持ちながら共に暮らしている		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要に応じて連絡を取り、状況報告し協力を頂きながら支援している	2ヶ月に1度は事業所広報を作成し活動内容を伝えているほか、居室担当者が毎月ご家族にお手紙をお送りしご利用者の暮らしぶりを伝えています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れたスーパーに出掛けたり、家族以外の知人が気軽に面会できるように支援している	近所の方や友人の面会も受け入れたり、個別の外出はできる限りご家族に協力していただき、お墓参り・スーパーへの買い物・美容室などに連れて行って頂き、馴染みの関係を継続できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し、一人ひとり役割を持って頂き、食席等の環境整備に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、いつでも連絡が取り合えるように声掛けし努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、訴えを傾聴し意思疎通が困難な時は状況に応じて対応している。	入浴時など1対1でリラックスして話せる場を大切に、会話の中から訴えたいことを見逃さないよう注意し、得た情報はミーティングにて共有されています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用している。ご本人やご家族からの情報を収集、整理し生活歴の把握に努めている	契約の際、センター方式のシートをご家族にも記入してもらい把握に努められています。定期的に見直す機会も設け、日々のやりとりの中で得られた情報も追加するようにしています。	全てのご利用者のセンター方式のシートについて、継続して定期的に見直す機会を設けられることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態観察を行い、毎朝のミーティングや申し送り等で状態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行っている。ご本人の意向を会話の中で引き出すようにし、ご家族の意向も面会時に伺いケアプランを作成している	居室担当が毎月モニタリングを行っており、ミーティングの際に情報交換を行っています。状況の変化に合わせてケアプランの見直しも行っているほか、ご利用者に合わせ3～6ヶ月に1度、サービス担当者会議を開催し、ケアプランの検討を行っています。	調査時点で介護計画の見直しが期間に合わせてできていないご利用者もいましたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にご本人の言動や心身の状態を記録し職員間で共有し、実践に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングを行い、ミーティング等でも職員間での話し合いを行い、柔軟に対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お茶の間、いも煮会、運動会等)に参加され楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関を受診されている。受診時、医療連絡表で状態報告し連携に努めている	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医の受診を基本として、定期受診は基本にご家族にお願いしており、緊急時には職員も同行しています。医師へは受診時医療連絡表を使用し、ご利用者の状況が分かり易いようにされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問看護師が来訪している。利用者様の状態報告行い、相談したり適切なアドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が病院関係者と連絡を取り関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には管理者から説明し今後について話し合い、決まった事は職員間で周知し支援に取り組んでいる	全てのご家族に契約時に事業所の看取り・重度化した際の方針について説明し、ご理解を得ています。また、ご利用者の状態に合わせて必要時に再度、ご家族との確認の機会を設けています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	セコム職員を講師に全職員でAEDの取り扱いを含め、救命講習会を行った	心肺蘇生やAED使用の研修を実施するなど、緊急時に適切な対応がとれるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を利用者様と一緒に行動し、動きを確認している。地域の防災訓練にも参加している	年に2回、夜間の火災や地震を想定した避難訓練も行われているほか、地域の方にも災害時の協力要請も行いました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを大切に言葉かけを行い、その人らしい生活ができるように心掛けている	個人情報の取扱いに関しては、プライバシーポリシー・個人情報の利用目的に沿った対応がされています。また、法人でも接遇に関する研修を行い、声かけや写真の使用の同意などの配慮も行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話やすい環境作りに努め自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた支援を重視し、散歩や買い物の希望があった場合はできるだけ添う様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。整容を自分で行える方は自分で、困難な方は一緒に行いその人らしいおしゃれを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや刻み、食事の後片付け等職員と一緒に行動し、食事も会話しながら楽しく頂いている	ご利用者のできる範囲で食事の準備や後片付けも職員と一緒に行動しています。また、外食の機会やホームでおやつ作りなども行い、ご利用者に食事を楽しんでもらえるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を個人記録に記入し、個々の摂取量に応じた支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り声掛けにて口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレの誘導や声掛けを行い、トイレでの排泄の自立に努めている	排泄チェック表による排泄パターンを把握、さりげない声かけでの誘導を行うことで、リハビリパンツの使用を減らす試みがされています。お通じに関しては毎朝のミーティングで確認し、下剤の使用をコントロールしています。	調査時点で排便のチェックに記入モレがある箇所もありましたので、今後記入モレが起きないようにされることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量に気を付け、献立も野菜を多く取り入れるようにしている。毎日体操も行っているが、場合によっては下剤を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況に合わせて気持ち良く入浴できるよう、声掛け等工夫し、ご本人の意思を尊重し支援している	入浴は基本的に1日おきとなっておりますが、一律の対応ではなく、ご利用者の好きな時間に入れるよう支援されています。また、入浴を嫌がる方に対しては、タイミングや声かけの方法などを職員間で共有し、無理強いせずに誘導されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に気持ち良く自室で休めるように室温、日光等にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬カードを活用して内容を確認し、変更時は全職員が周知する様努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活用し、その人に合ったレクや作業を行って頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて、散歩や買い物等できるだけ希望に添う様に支援している。お盆やお彼岸などは、ご家族に協力を頂き外出している方もいる	お花見やぶどう狩りなどの季節に合わせた外出や、買い物や外食などの日常的な外出支援など、屋外に出かけられるよう支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの預り金の他に、自分でお金を持っている方もいる。買い物等で職員が同行し、好きな物を購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話できるように支援している。 1名の方が携帯電話を持っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りや草花を飾ったり、献立にも旬の食材や行事食を取り入れ工夫している。清潔で心地よい環境作りに努めている	ホームに居ながらにして四季を感じられるように配慮し、季節に合わせて雛人形を飾ったり、お花を飾ったりしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室や食席以外にもソファやこたつを利用し、思い思いに過ごせるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望をご家族に伝えたり、自宅から慣れ親しんだ物を持参して頂き、心地よい空間作りを支援している	居室内はご利用者が使い慣れた時計やラジオ、人形や家具などを持ってきてもらい、「その人らしい空間作り」の工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに張り紙を貼ったり、歩く所には不要物を置かない等、環境を整え安全で自立した生活ができるように支援している		